

# 衛生管理製品製造 サンロード (橿原市)

## 奈良発

# 元気企業の挑戦

▶22



電石帽の静電気の原理を応用し、加工現場全体の空調機能を実現した「電石サニフィルター」(橿原市)

万葉集にもうたわれた大和三山の一つ、畹傍山に近い橿原市大久保町の衛生管理製品を製造する「サンロード」は、付加価値製品の開発型中小企業として知られている。

そのうちのひとつが静電気の原理を応用した「電石帽(でんしやくぼう)」だ。創業からほぼ十一年目の平成元年に開発された優れたもの。毛髪の落下が許されない食品製造工場での異物混入防止用品として一躍全国に広まり、今も年商約七億円の37%を稼ぐ主力商品だ。開発以来、改良を重ね現在は三代目。

●静電気原理で髪・ふけ吸着  
電石帽の素材となる超微細繊維不織布「トレミクロン」は東レが開発。プラスチック業界に顔の広い高見敏明社長はまた、医療用手袋を製造販売する業者から「毛髪管理ができるように知恵を貸

してほしい」と注文を受けていた。磁石が磁界を形成するように、この繊維はプラス(+)とマイナス(-)の電界を形成するため毛髪やふけ、ほこりを吸着。顔の周りを伸縮性のあるゴムを使い、びんやえり足の毛もカバーする。

電石帽は頭部の蒸れ防止の機能やマスクとの組み合わせなどバリエーションはさまざま。基本形は青島工場だが、複雑なオーダーメイドのものは本社で生産している。

業当初から約十年ほどは苦難の道を歩まざるを得なかった。

●創業から自社開発志す  
高見社長はもと、大阪市内にあるプラスチック製品の素材販売の商社に営業担当部長だった。「市場は拡大し

高見社長は「食品加工業界では特に、同じ企業でも生産環境がさまざまに変わる。電石帽ですべてをカバーはできない。生産環境に合わせて、何種類もの特注品が求められる」と話す。幸い、サニキャップもどんどん普及、年商の約24%を支えるまでに成長した。

このほか、衛生マスクが約25%。薬品や食品の作業現場そのものの防塵(じん)機能を図り、部屋全体をクリーンルームにする「電石サニフィルター」をサニキャップとほぼ同時期の平成八年に開発した。こちらの普及はこれからは、年商の約8%程度だ。

製品はほとんどが自社開発製品で、大手メーカーの下請け企業でない点が同社の最大の強み。しかし、「電石帽」の製造販売まで、創業当初から約十年ほどは苦難の道を歩まざるを得なかった。

【事業内容】 ミクロのちりや毛髪を除去するための設備機械や衛生対策商品の企画・開発・製造・販売(電石帽、電石マスク、産業用・メディカル用マスク、サニキャップ、電石サニフィルター)  
【創業】 昭和53年6月21日  
【本社・工場】 橿原市大久保町299▽中国工場(青島太陽路衛生防護用品有限公司) = 中国山東省青島市  
【代表者】 代表取締役社長=高見敏明  
【従業員】 約50人▽中国工場=約70人  
【資本金】 2000万円  
【年商】 約7億円  
【アクセス】 電話0744(23)4139▽ホームページ = http://www.sunroad-nara.co.jp/

# 開発・改良重ねねヒット

●中国・青島工場で生産  
電石帽はいま、中国山東省の青島市に全額出資で建設した中国工場(青島太陽路衛生防護用品有限公司)で月産十万余を生産する。平成十四年十月から稼働し

電石帽とは別に、一年から二年の耐久性をもつ新たな新製品「サニキャップ」を平成八年に開発した。ほとんどオーダーメイドで、顔の部分以外はすべて覆い、防寒効果も上げた。

電石帽とは別に、一年から二年の耐久性をもつ新たな新製品「サニキャップ」を平成八年に開発した。ほとんどオーダーメイドで、顔の部分以外はすべて覆い、防寒効果も上げた。

高見社長は「商社会社にいれば食えないことはなかった。しかし、新たな夢を持って自分自身のチャレンジとしてやる気奮い立たせてきた。出会った人たちとの縁もあるが、信念を持ってやってきてよかった」と振り返る。今後については「急激に大きくなるのではなく、つぶれないための内部留保も積み立て、ものづくりの本道を着実に歩んでいきたい」と語る。(写真・牡丹賢治/文・水村勲)



電石帽を量産する中国・青島工場の生産現場=サンロード提供

# 主力の電石帽 ロングセラー

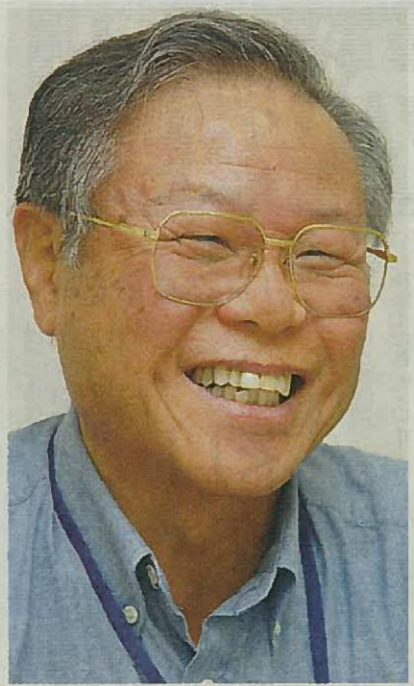


電石帽に続くヒット商品のサニキャップ



サニキャップの縫製作業=橿原市大久保町のサンロード本社工場

開発以来、会社を支える大黒柱となった電石帽



サンロード社長

**高見 敏明さん**  
電石帽の開発・製造までは、正直言って苦しかった。最初は介護用おむつカバーや生理用ショーツを開発製造していたがすぐに市場に売れなかった。それでも新しい製品ができるまで、業界名簿でターゲットを絞って飛び込み営業を続けた。ジョギング用のサウチウェアができて、ある音

貨店系の通販会社に飛び込むと採用され、これがある程度売れたこともあった。こうして人脈も徐々に広がっていき、希望を持って取り組んだのがよかった。電石帽ができた平成元

**希望胸に地道な歩み**  
髪管理が問題となっていた。時代のニーズに乗った。平成十五年まで電石帽の生産量は右肩

間を長くしている。しかし、電石帽もサニキャップも作業現場のニーズに合わせて材質、機能、デザイン的面でまた改良の余地があり、成長する製品であることは確かだ。(たかみ・としあき) 昭和十三年、徳島県阿南市生まれ。橿原市白檀町在住)